

大阪教育大学 環境報告書2025

Osaka Kyoiku University
Environmental Report 2025

1	学長挨拶	1
2	環境方針	2
	大阪教育大学環境報告書2025の作成にあたって	
3	環境マネジメント組織	3
4	大学概要	4
	大阪教育大学各キャンパス	5
	団地の所在地	6
	柏原キャンパスマップ	7
5	環境配慮実施計画（2024年度の実施計画、評価）	8
	環境配慮実施計画（2025年度の目標）	9
6	マテリアルバランス	10
7	環境負荷データ	11～13
8	環境負荷低減への取り組み	14～15

1. 学長挨拶

変化が激しく予測困難な時代において、社会や教育の抱える課題は複雑化・多様化しており、学校現場においても、多様な主体と協働して課題解決に臨むことが求められています。

大阪教育大学は「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくためのけん引役として、令和4年3月に、文部科学大臣から「教員養成フラッグシップ大学」の指定を受け、日本の未来の教育を創る人材の養成に全学を挙げて取り組んでいます。

超スマート社会の実現に向けて、これからの教員はデジタル技術の理解と活用、イノベーションの促進や創造性を高める必要性があります。大阪教育大学は教員養成フラッグシップ大学に対する、単位の修得方法に関する特例の適用により、協働・省察を促し、教育DXの推進による先導的・革新的な教員養成カリキュラムを開発して令和6年度から学校教育教員養成課程に導入しています。そして、教員の自律的な学びを支援する、教員生涯学習プラットフォーム（OZONE-EDU）を開発し、良質なオンライン研修を提供することにより、教育に資する専門職業人の養成段階から職能成長段階に至るまでの生涯にわたる学びを支援しています。こうした背景のもと、昨年4月に「日本の教育課題に対応し、新たな未来教育を創造する産官学連携による共創拠点」の形成をコンセプトとして、天王寺キャンパスに「みらい教育共創館」がオープンしました。教育委員会・学校現場・行政・産業界・大学等が、それぞれ抱える課題（弱み）や資源（強み）を一堂に集積し、産官学連携のもとで大阪の教育課題の解決に取り組み、成果を全国に発信・展開することを通じて、大阪から日本の教育の未来を変えてまいります。

令和3年5月26日に成立した改正地球温暖化対策推進法を踏まえ、本学では環境方針の下、教員養成系大学として高い学識と豊かな教養をもち、環境問題に理解のある人材を育成していきます。引き続き、本学の教育研究活動へのご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



国立大学法人大阪教育大学長

岡本 綾子

2. 環境方針

基本方針

大阪教育大学は、地球環境の保全が大きな問題であることを真摯に受け止め、教育研究及びあらゆる活動を通じて、地域を含めた良好なキャンパス環境の維持保全に努めます。

また、教員養成系大学として高い学識と豊かな教養をもち、環境問題に理解のある人材を育成します。このため、特に次の事項について推進して行きます。

1. 省エネルギー、廃棄物の抑制、資源の再利用、環境汚染防止等全ての環境負荷の低減に継続的に取り組みます。
2. 美しく豊かなキャンパス環境の実現に向けた緑化整備、環境美化等について、全ての大学構成員の参加によるプログラムを推進します。
3. 環境に関する法令を遵守し、さらに自主管理規程を制定し、大学の社会的責任を果たします。
4. この基本方針を達成するため、環境配慮目標を設定し、環境情報を提供するなど、全ての大学構成員により環境保全に取り組みます。
5. この方針は、BBS（電子掲示板）をもって全構成員に周知するとともに、本学WEBサイトを用いて広く社会に開示します。

大阪教育大学環境報告書2025の作成にあたって

作成方針

「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）」の施行により、大阪教育大学では、2006年度より環境報告書を作成、公表してきました。

大阪教育大学は2004年4月に法人化し、国立大学の自律的な運営が求められる中、省エネの取り組み、古紙のリサイクル等環境負荷削減に取り組んできましたが、なお一層の努力が必要であると考えています。

大阪教育大学環境報告書2025は、本学の教職員、学生のみならず、本学の卒業生、本学への入学を希望されている方々、保護者及び近隣住民等のステークホルダーに対して、2024年度の大阪教育大学の環境についての現状を報告するものとして作成しました。

報告書の対象範囲
大阪教育大学

報告書の対象期間
令和6年度（2024年4月～2025年3月）

環境配慮実施計画の方針
2024年度に達成した環境配慮実施計画を踏襲し、より環境負荷の低いキャンパスを目指す。

参照ガイドライン等

- 「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」に基づく「環境報告書の記載事項」
- 環境省「環境報告書の記載事項等の手引き」
- 環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」

発行年月
2025年9月

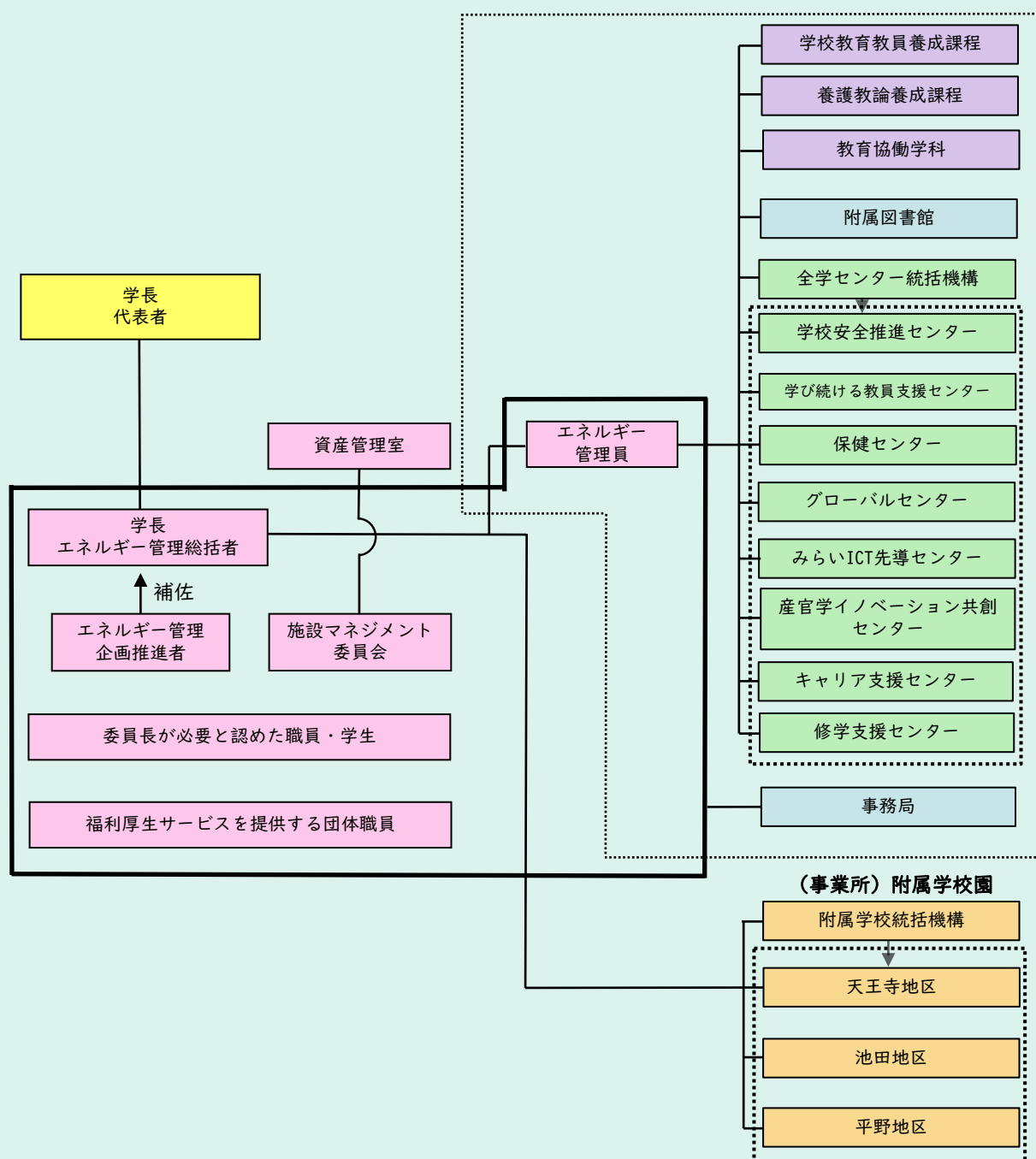
次回発行予定
2026年9月

3. 環境マネジメント組織

本学は、省エネルギー及び温室効果ガス排出抑制を着実に効果的に推進するため、学長のもと下図のようなエネルギー管理体制組織及び温室効果ガス排出抑制推進体制を整備、運用しています。省エネルギー推進委員会には、本学の学生や生協職員にも入ってもらい、オール大教大で取り組んでいます。

大阪教育大学エネルギー管理組織及び温室効果ガス排出抑制推進体制

(事業所) 大学 (柏原・天王寺)

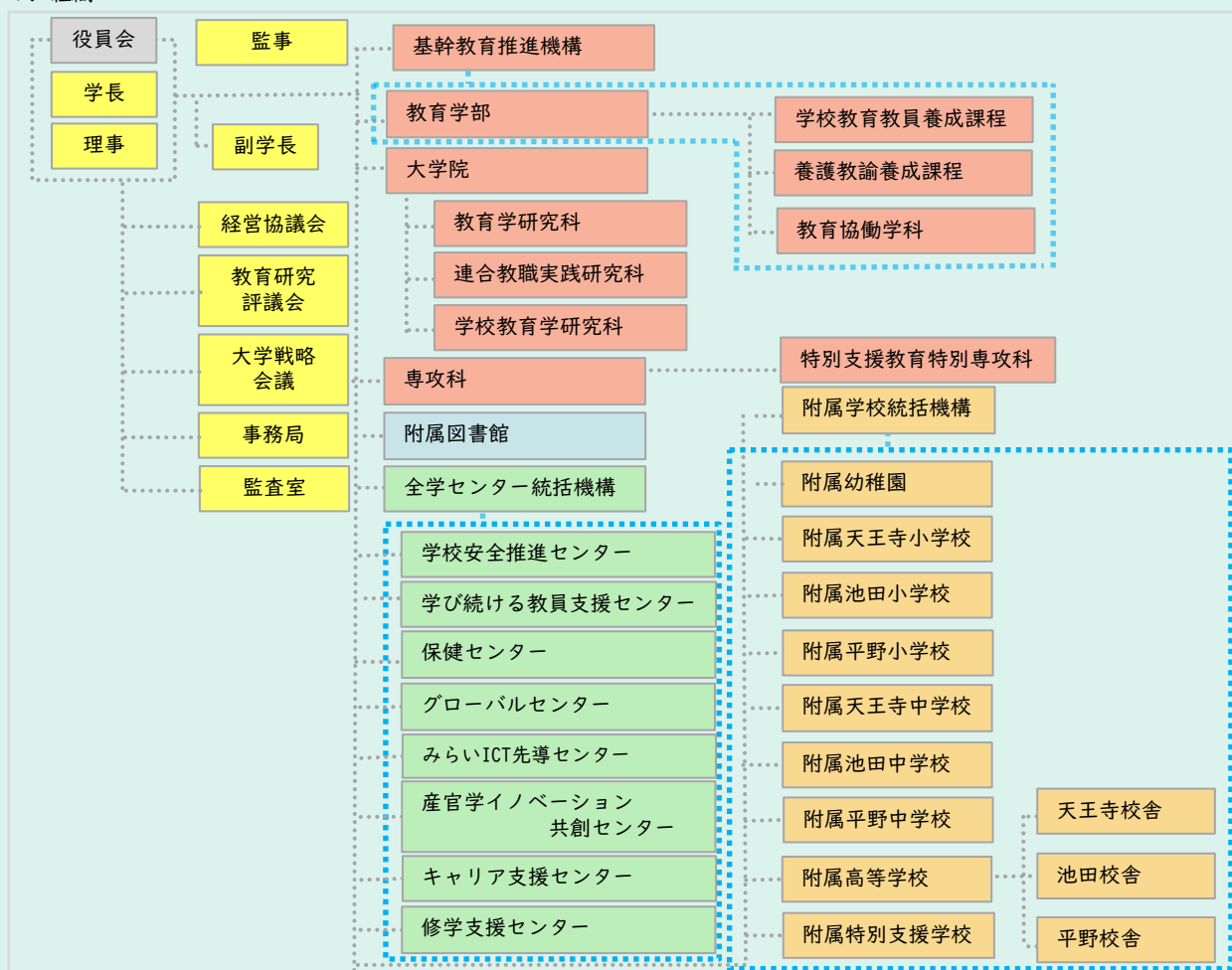


4. 大学概要

大阪教育大学は、1874年（明治7年）5月の教員伝習所設立以来、150年を超える歴史と伝統を有する我が国多数の教員養成大学です。

現在の大阪教育大学は、大阪府柏原市の金剛生駒紀泉国定公園内に約67万㎡のメインキャンパスを配置し、教員養成教育と教養教育を通じて有為な人材を輩出する一方、国際都市として交通アクセスはもとより、情報・産業の中核機能を有する大阪市内に天王寺キャンパスを擁しています。さらに、大阪市天王寺区、阿倍野区、平野区及び大阪府池田市の3地区に初等・中等教育並びに特別支援教育に対応した11の附属学校園を設置し、総合的な教育系大学をめざしています。

1. 組織



2. 職員数 (令和7年5月現在)

学長	1	教授	114
理事	5	准教授	83
監事	2	講師	28
合計	8	助教	0
		附属学校教員	256
		事務系職員	174

3. 学生数 外国人留学生は内数で記入 (令和7年5月現在)

■教育学部

教員養成課程・教育協働学科	
教員養成課程	2,434
教育協働学科	1,476
合計	3,910

■大学院・専攻科

教育学研究科	118
連合教職実践研究科	248
学校教育学研究科	5
特別支援教育特別専攻科	19

大阪教育大学各キャンパス



柏原キャンパス



天王寺キャンパス

天王寺地区附属学校

- ①（附属天王寺小学校）
- ②（附属天王寺中学校）
- （附属高等学校天王寺校舎）



平野地区附属学校

- ③附属平野中学校
- 附属高等学校平野校舎
- ④附属幼稚園
- ⑤附属平野小学校
- （附属特別支援学校）



池田地区附属学校

- ⑥附属池田小学校
- ⑦附属池田中学校
- ⑧附属高等学校池田校舎

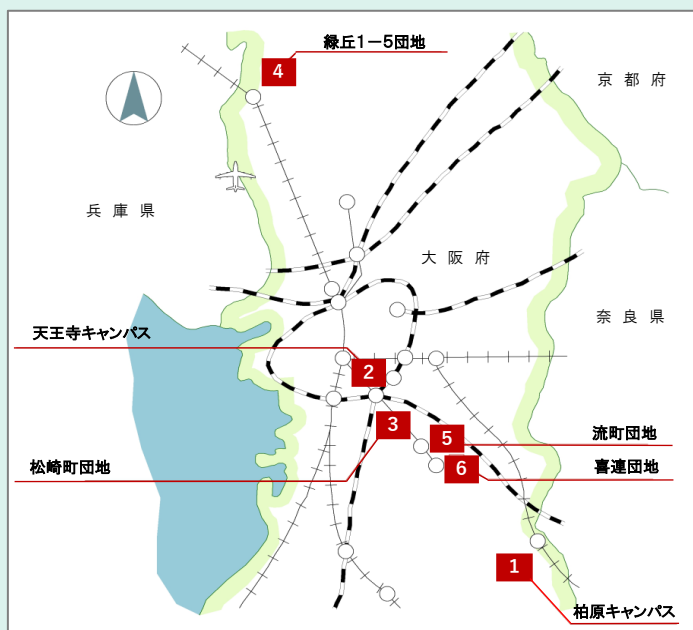
団地の所在地

柏原地区	
1	柏原キャンパス（旭ヶ丘団地）
大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1	

天王寺地区	
2	天王寺キャンパス（南河堀町4団地）
大阪市天王寺区南河堀町4-88 附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎 大阪市天王寺区南河堀町4-88	
3	松崎町団地
附属天王寺小学校 大阪市阿倍野区松崎町1-2-45	

池田地区	
4	緑丘1-5団地
附属池田小学校	池田市緑丘1-5-2
附属池田中学校	池田市緑丘1-5-1
附属高等学校池田校舎	池田市緑丘1-5-1
学校安全推進センター	池田市緑丘1-2-10

平野地区	
5	流町団地
附属幼稚園	大阪市平野区流町2-1-79
附属平野小学校	大阪市平野区流町1-6-41
附属平野中学校	大阪市平野区流町2-1-24
附属高等学校平野校舎	大阪市平野区流町2-1-24
6	喜連団地
附属特別支援学校	大阪市平野区喜連4-8-71



キャンパスの特徴

大阪教育大学には柏原キャンパスの他、天王寺キャンパス及び11の附属学校園が設置されています。大阪市内の天王寺地区及び平野地区、大阪府北部の池田地区に分かれて置かれ、いずれも大学との連携のもと、教育研究・教育実践・教育実習の場として重要な役割を果たすとともに、それぞれ地区ごとに連絡進学をはじめさまざまな相互連携をとり、下記のような特徴を持っています。

- 柏原キャンパス**
平成4年より天王寺、平野、池田より統合移転し、大学の本部及び教育学部（学校教育教員養成課程 養護教諭養成課程、教育協働学科）を置くキャンパスです。
- 天王寺地区**
教育学部（学校教育教員養成課程（昼間・夜間コース））、大学院（教育学研究科（修士課程））、連合教職実践研究科（教職大学院）、大学院（学校教育学研究科（博士後期課程））と附属天王寺小学校、附属天王寺中学校、附属高等学校天王寺校舎を有するキャンパスで、「人間と科学の調和を拓くリテラシー教育」を研究テーマにしています。
- 池田地区**
附属池田小学校、附属池田中学校、附属高等学校池田校舎を有するキャンパスで、「グローバル社会を協働的に創造する資質・能力の育成」を研究テーマにしています。
- 平野地区**
附属幼稚園、附属平野小学校、附属平野中学校、附属高等学校平野校舎、附属特別支援学校を有するキャンパスで、「生涯発達の視点に基づいた校種間連携型一貫教育」を研究テーマにしています。

柏原キャンパスマップ



1 共通講義棟 (A棟)

大小の講義室、実験教室、情報処理実習室、CALL (コンピュータ支援語学学習) 教室、ロッカールームの他に、外国語学習支援ルームやICT教育支援ルームがあります。



2 教育協働学科棟 (B棟)

主に教育協働学科の講義室、実習室、研究室などがあります。憩いの場である「レモンルーム」や壁一面のホワイトボードスペース「ガリレオボード」もあります。



3 教員養成課程棟 (C棟)

主に教員養成課程の講義室、実習室、研究室などがあります。入試課はC1棟1階にあります。憩いの場である「メロンルーム」や障がい学生修学支援ルームもあります。



4 附属図書館 (D棟)

約90万冊の資料が利用できる閲覧室やアクティブラーニングが可能なまなびのひろば・グループ学習室を設置しています。院生スタッフによる学習サポートも行っています。



5 みらいICT先導センター (E棟)

学内共同利用施設として、情報化の推進と情報システムの円滑な運用により、教育研究の発展に寄与することを目的としています。ネットワーク実習室、マルチメディア実習室、オープンLANスペース等があります。



6 美術棟 (F棟)

絵画室、デザイン室、書道室、講義室、研究室などがあります。



7 工房棟 (G棟)

彫刻室、金工室、立体室、木工室、窯工室、研究室などがあります。



8 体育・スポーツ棟 (H棟)

実験実習室、講義室、セミナー室、研究室などがあります。



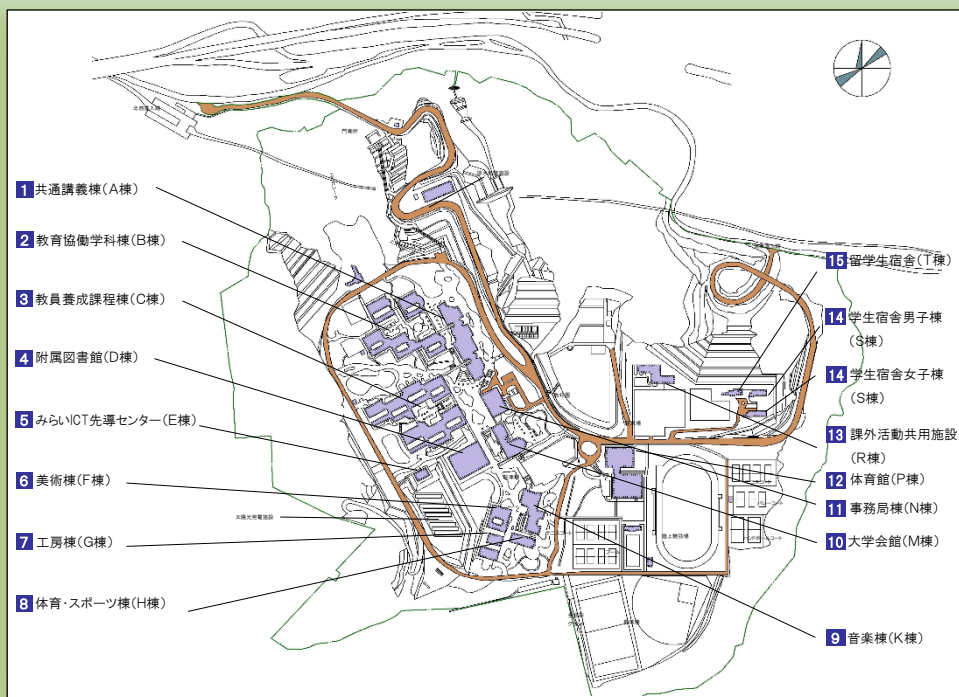
9 音楽棟 (K棟)

リハーサルホール、実習室、練習室、講義室、研究室などがあります。



10 大学会館 (M棟)

Dining TERRA、第二食堂、レストランFORET、喫茶 (SUN Cafe)、Shopアイリス (書籍購買) などがあり、学生の憩いの場となっています。



11 事務局棟 (N棟)

学務部のほか、総務部、学術部などがあります。



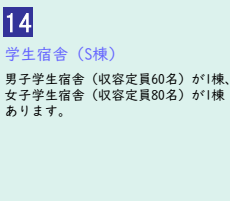
12 体育館 (P棟)

大メインアリーナ、サブアリーナ、器械運動場、第一武道場、第二武道場、ダンスルーム、トレーニングルーム等があります。



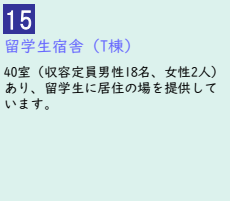
13 課外活動共用施設 (R棟)

体育系共用室、文化系共用室、合宿室などがあり、課外活動の拠点になっています。



14 学生宿舎 (S棟)

男子学生宿舎 (収容定員60名) が1棟、女子学生宿舎 (収容定員80名) が1棟あります。



15 留学生宿舎 (T棟)

40室 (収容定員男性18名、女性2人) あり、留学生に居住の場を提供しています。

5. 環境配慮実施計画 2024度の実施計画、評価

大阪教育大学の環境配慮の目標は、「省エネルギー・省資源の推進」「廃棄物の抑制」「環境汚染防止」「環境教育等の充実」「地域貢献」「学内美化」の項目を実施計画とし、進めていきます。

省エネルギー・省資源の推進 (自己評価の●は計画達成、▲は一部達成、×は未達成を示します。)

項 目	実 施 計 画	自己評価
エネルギー使用量・ 温室効果ガスの削減	■エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を関係法令等に従い削減する。 ■旧フロンガスを使用する機器、老朽化した空調機器を更新する際は、高効率機器の採用を推進する。 ■フロン法に基づき、点検を行い、空調の劣化を未然に防ぐ。 ■教室等の照明器具の更新を行う際は、LED化、高効率器具等への更新し、省エネに配慮した機器の導入を推進する。 ■掲示物等で省エネの啓発を行う。	●
水使用量の削減	■掲示物等で節水の啓発を行う。 ■トイレ等の改修を行う際は、節水器具の導入を推進する。	●

廃棄物の抑制

一般廃棄物の排出抑制	■分別回収の徹底を強化する。 ■大学生協のランチボックス等をリサイクルする。また、プラスチックゴミは、削減するよう取り組む。 ■掲示によるマナー啓発活動の展開をする。 ■最近の海洋汚染を考慮して、プラスチック製品を脱プラスチック製品への使用に切り替えを行い、SDGsに取り組む。	●
用紙使用量の削減	■用紙の両面利用を推進し、使用量の削減を図る。 ■学内連絡や会議用資料の説明保存等を紙から電子記録媒体にする。	●
排水量の削減	■生活排水の中水利用を行い、排水量の削減を図る。	●

環境汚染防止

実験廃棄物等の管理	■学長統括の下、大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。	●
実験廃棄物の廃棄	■大阪教育大学実験廃棄物取扱規定に基づき、実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下、実験廃棄物を排出する実験廃棄物等取扱者が廃棄処分する。	●
実験用劇物等の管理	■購入者がその都度、薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。 ■大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に、少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。 ■受払簿は保管庫倉庫内と保管庫内に保管する。 ■受払簿は使用する毎に記載する。	●

環境教育等の充実

環境マインドの醸成	■キャンパスクリーン等を行い、自分達を取り巻く環境を自分達の手で綺麗にすることにより、環境マインドの醸成を図る。	●
-----------	--	---

地域貢献

森林体験学習	■柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施する。	●
グリーンアドベンチャー (社団法人青少年交友協会)	■キャンパス内に設定されたコース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを回る野外活動で近隣地域の住民にも開放する。キャンパスの豊かな自然の中で自然に親しみ、植物をとらえて生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。	●
その他	■星空を観察するという身近な方法で大気の流れを実感し、大気汚染問題に対して関心をもって頂くことを目的とした「星空の観察会」を実施する。 ■幼稚園の遠足及び国際フェスティバル等の場所を提供する。	●

学内美化

雑草の刈り取りと ゴミの一斉収集	■キャンパスクリーン週間を設け、教職員等による一斉雑草刈りとゴミの収集を行い、環境美化を図る。 ■また、この週間中以外でも道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応とする。	●
植栽の剪定	■期日を決め定期的に剪定や草刈の実施をする。	●

環境配慮実施計画 2025年度の目標

大阪教育大学の環境配慮の目標は、「省エネルギー・省資源の推進」「廃棄物の抑制・資源の再利用」「環境汚染防止」「環境教育等の充実」「地域貢献」「学内美化」の項目を実施計画とし、進めていきます。

省エネルギー・省資源の推進

項 目	実 施 計 画
エネルギー使用量・温室効果ガスの削減	■中長期的に見て年平均1%以上のエネルギー消費原単位又は電気需要最適化評価原単位を低減する。 ■温室効果ガスについて、2030年度に2013年度比で20%以上削減する。 ■旧フロンガスを使用する機器、老朽化した空調機器を更新する際は、高効率機器の採用を推進する。 ■フロン法に基づき、点検を行い、空調の劣化を未然に防ぐ。 ■教室等の照明器具の更新を行う際は、LED化、高効率器具等への更新し、省エネに配慮した機器の導入を推進する。 ■掲示物等で省エネの啓発を行う。
水使用量の節減	■掲示物等で節水の啓発を行う。 ■トイレ等の改修を行う際は、節水器具の導入を推進する。

廃棄物の抑制・資源の再利用

一般廃棄物の排出抑制	■分別回収の徹底を強化する。 ■大学生協のランチボックス等をリサイクルする。また、プラスチックゴミは、削減するよう取り組む。 ■掲示によるマナー啓発活動の展開をする。 ■最近の海洋汚染を考慮して、プラスチック製品を脱プラスチック製品への使用に切り替えを行い、SDGsに取り組む。
用紙使用量の削減	■用紙の両面利用を推進し、使用量の節減を図る。 ■学内連絡や会議用資料の説明保存等を紙から電子記録媒体にする。
排水量の削減	■生活排水の中水利用を行い、排水量の削減を図る。

環境汚染防止

実験廃棄物等の管理	■学長統括の下、大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。
実験廃棄物の廃棄	■大阪教育大学実験廃棄物取扱規定に基づき、実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下、実験廃棄物を排出する実験廃棄物取扱者が廃棄処分する。
実験用劇物等の管理	■購入者がその都度、薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。 ■大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に、少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。 ■受払簿は保管庫倉庫内と保管庫内に保管する。 ■受払簿は使用する毎に記載する。

環境教育等の充実

環境マインドの醸成	■キャンパスクリーン等を行い、自分達を取り巻く環境を自分達の手で綺麗にすることにより、環境マインドの醸成を図る。
-----------	--

地域貢献

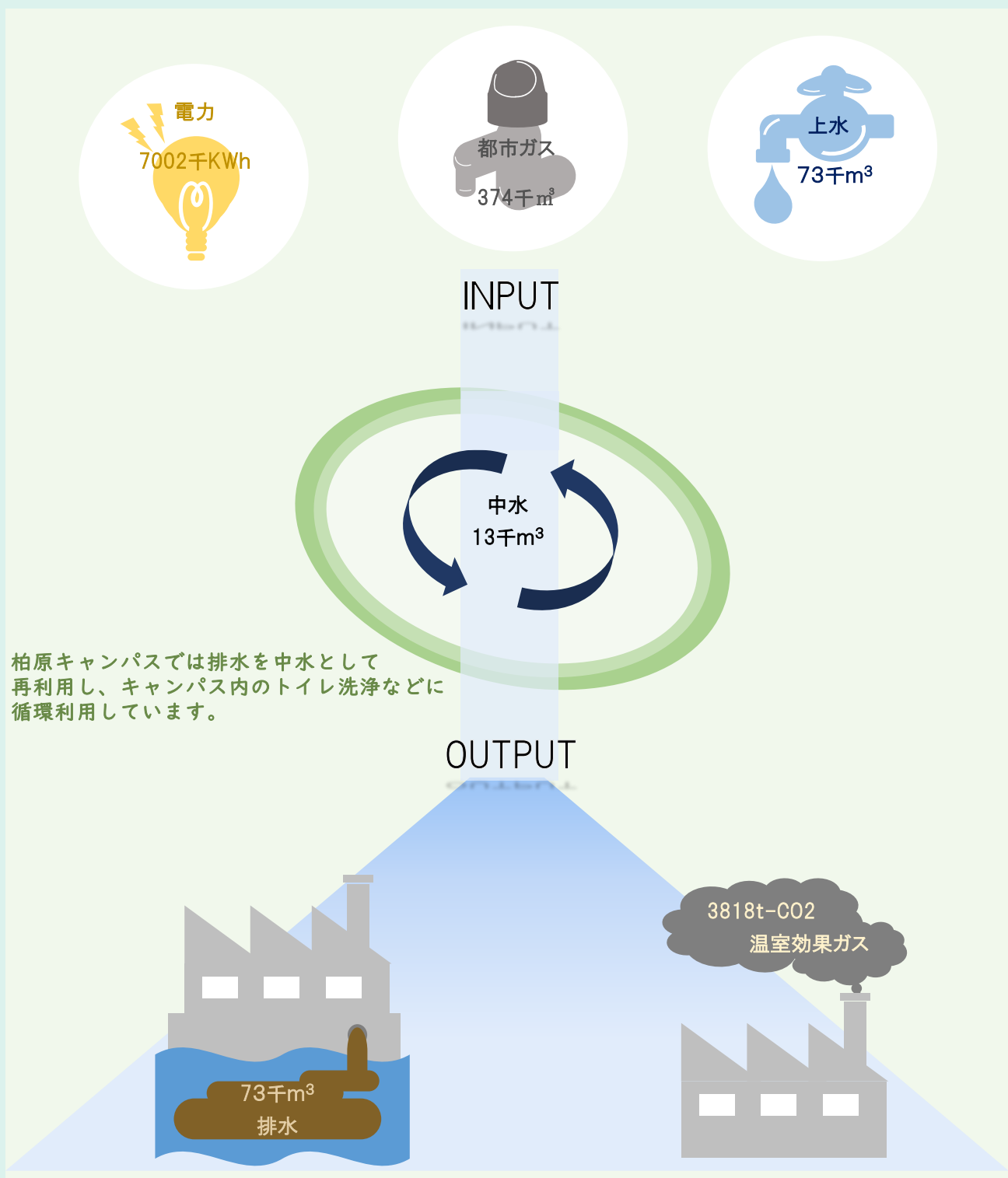
森林体験学習	■柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施する。
グリーンアドベンチャ (社団法人青少年交友協会)	■キャンパス内に設定されたコース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを回る野外活動で近隣地域の住民にも開放する。キャンパスの豊かな自然の中で自然に親しみ、植物をとおりて生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。
その他	■星空を観察するという身近な方法で大気の流れを実感し、大気汚染問題に対して関心をもって頂くことを目的とした「星空の観察会」を実施する。 ■幼稚園の遠足及び国際フェスティバル等の場所を提供する。

学内美化

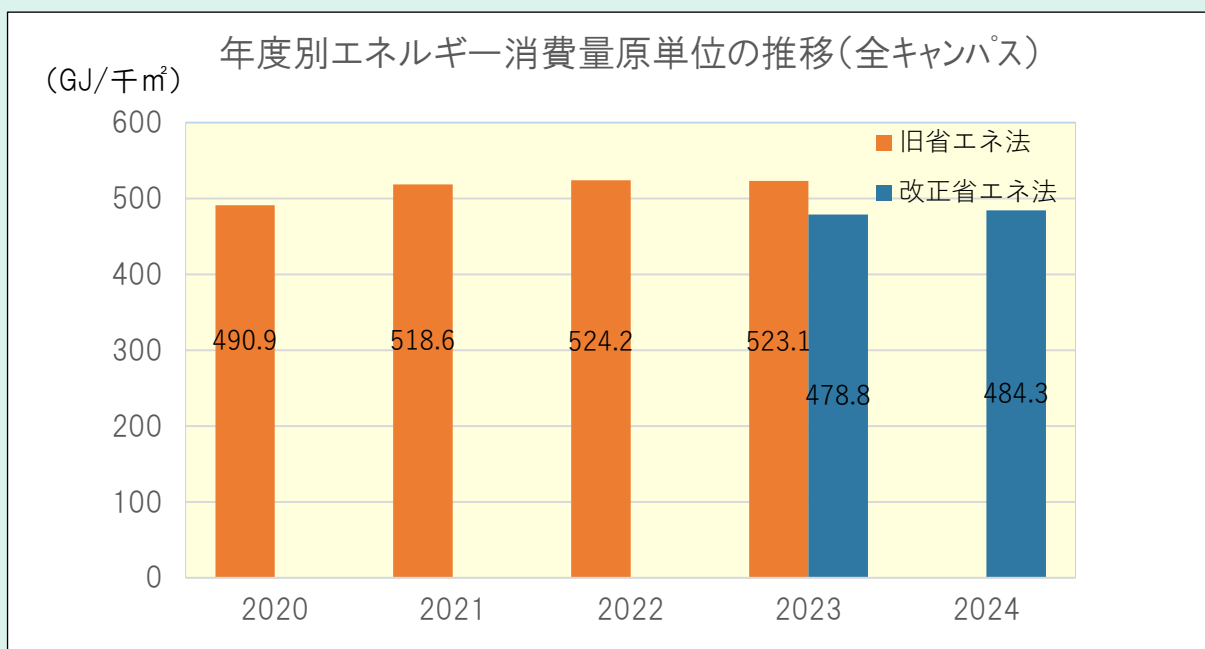
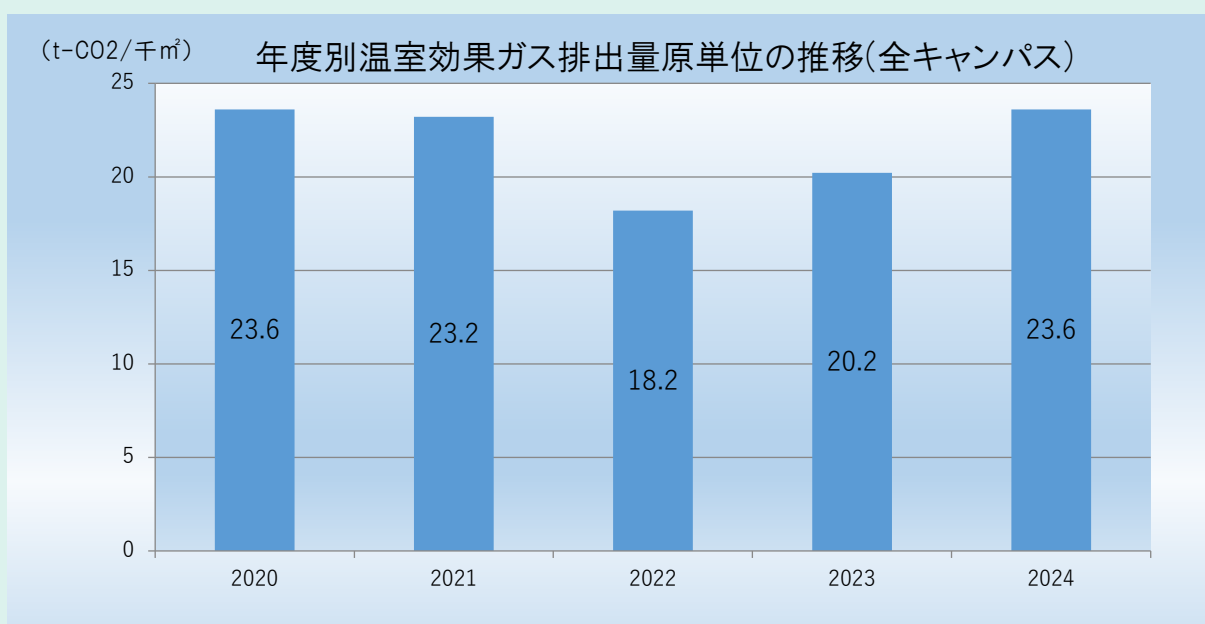
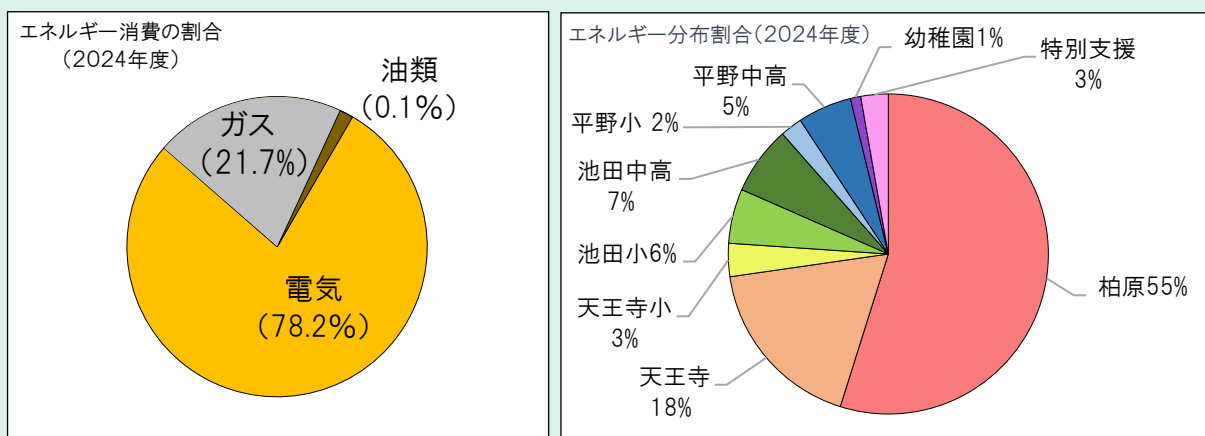
雑草の刈り取りと ゴミの一斉収集	■キャンパスクリーンデーを設け、教職員等による一斉雑草刈りとゴミの収集を行い、環境美化を図る。 ■また、この期間以外でも道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応とする。
植栽の剪定	■期日を決め定期的に剪定や草刈の実施をする。

6. マテリアルバランス

マテリアルバランスとは、大学の活動に伴う環境負荷の全体像で、大学の活動のために投入する資源等をINPUT、大学の活動結果排出する環境負荷をOUTPUTとして表したもので、2024年度の大阪教育のマテリアルバランスは下記のとおりです。



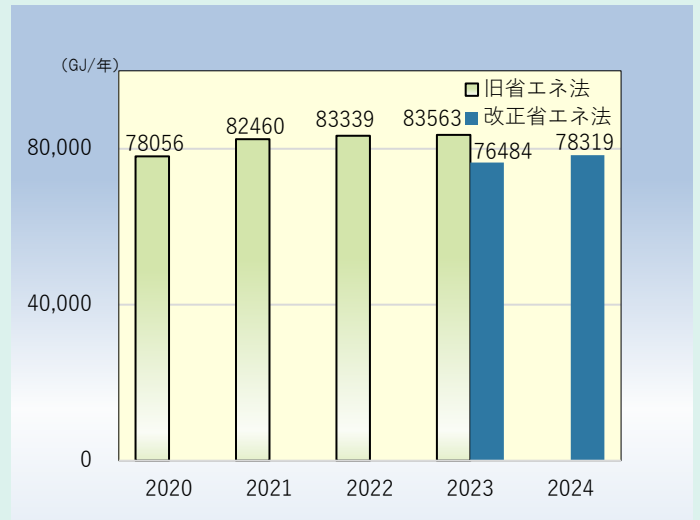
7. 環境負荷データ



環境負荷データ

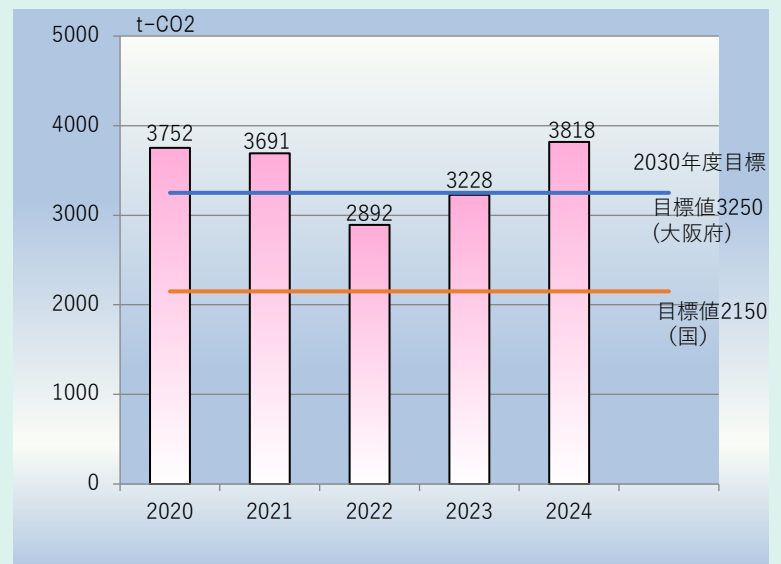
エネルギー消費量

- エネルギー消費量の削減に努めています。
- 2024年度は、2023年度と比べて、約2.4%のエネルギー消費量増加となりました。



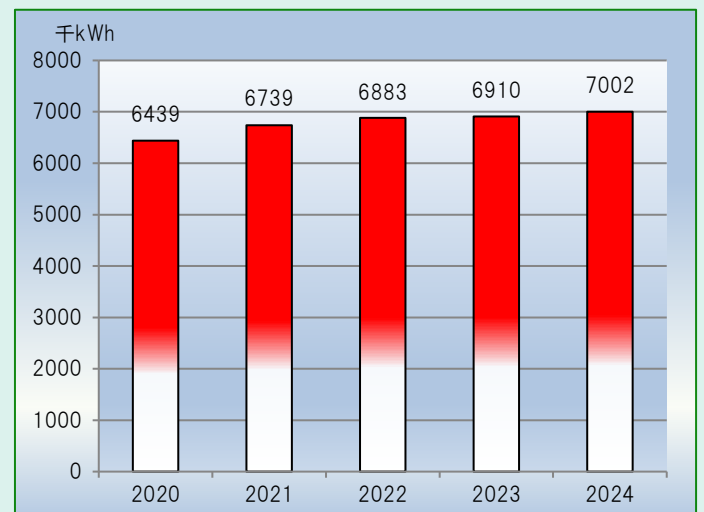
温室効果ガス

- 温室効果ガス排出量削減に努めています。
- 2024年度は、空調設備の更新による高効率化を行うと共に、年間を通しての省エネ活動として、電力の平準化や節電等を実施しています。
電力会社の排出係数が約33%増加した関係で、2023年度と比べ約18%の排出量増加となりました。
- 国の第6次エネルギー基本計画では、2030年度に2013年度比で50%を目指し、大阪府の条例では特定事業者に対しては20%以上の排出量に抑えるよう求められており、それぞれ2150トン及び3250トンとなります。



電力

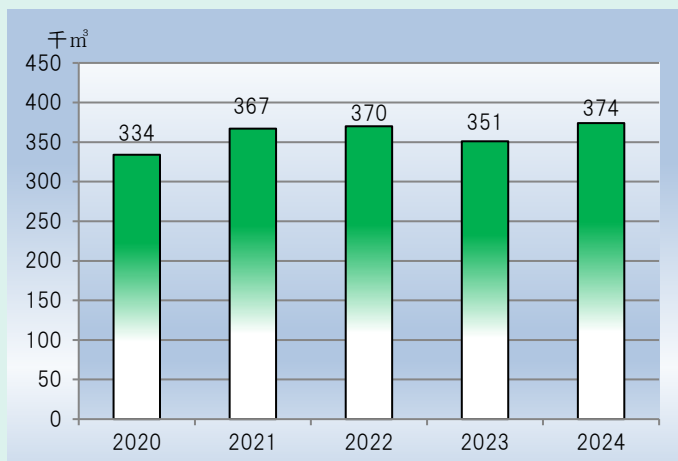
- 電力使用量削減のため全学的な省エネ活動を推進しています。
- 2024年度は、2023年度に比べ約1.3%の使用量増加となりました。



環境負荷データ

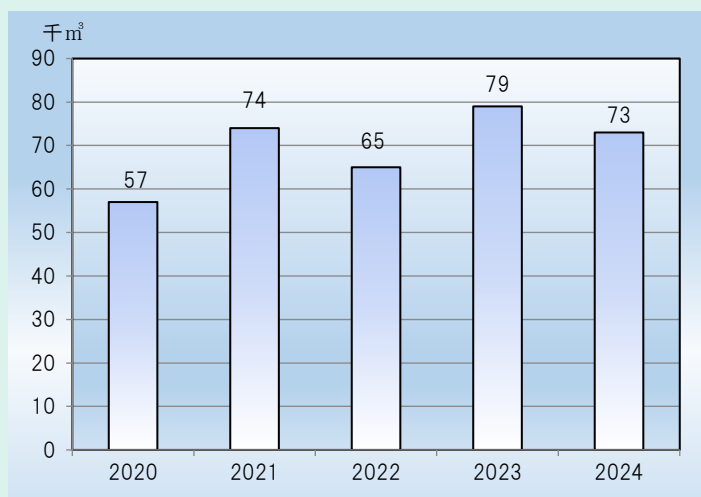
都市ガス

- ガス使用量削減について
全学的な省エネ活動を推進しています。
- 2024年度は、2023年度に比べ約6.6%の使用量増加となりました。



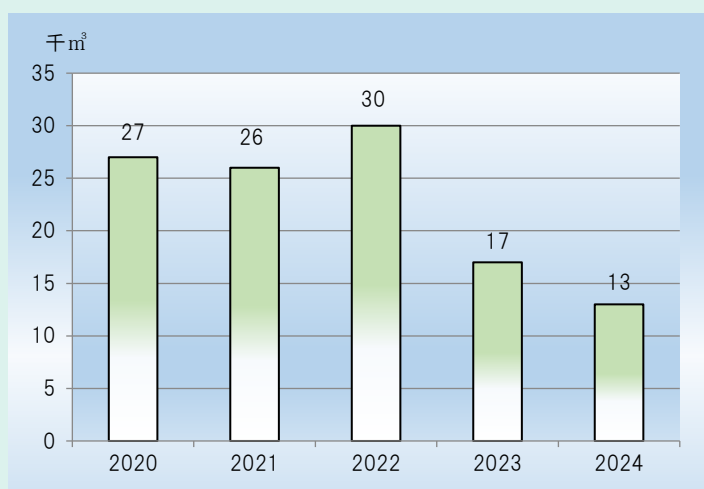
上水

- 節水対策により水の使用量削減に努めています。
- 2024年度は、2023年度に比べ約7.6%の減少となりました。



中水

- 中水は排水を再生処理してキャンパス内で再循環利用しています。
- 2024年度は漏水の改善等が進み2023年度に比べ約24%の使用量削減となりました。



8. 環境負荷低減への取り組み

高効率空調の導入について

○省エネ・CO2削減目標達成のためのハード対策として、本学に設置している旧冷媒ガスR22を使用した空調機について新冷媒ガスを使用した空調機への更新を進めています。

旧冷媒(R22)



オゾン層破壊効果あり

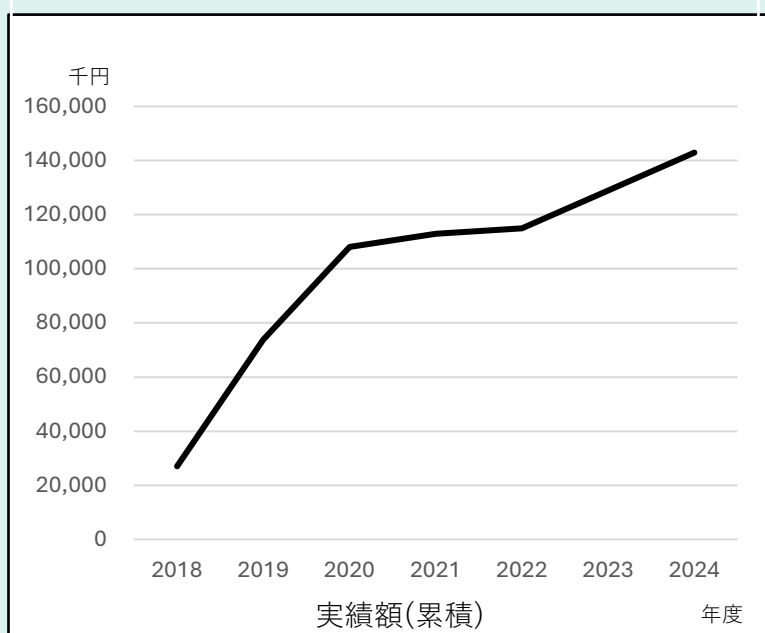
新冷媒(R32)



オゾン層破壊効果なし

更新

空調機（R22冷媒）更新実績について

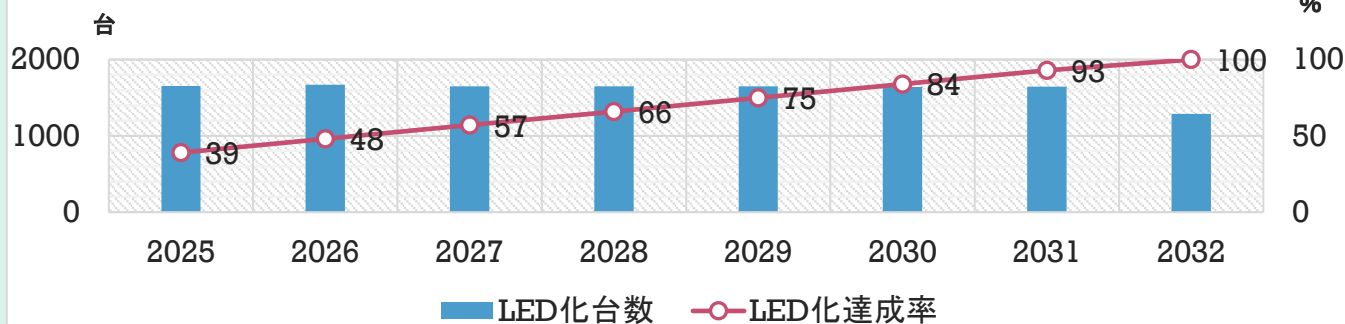


年度	実績額 (千円)	実績額(累積) (千円)	更新完了率
2018	27,000	27,000	8.78%
2019	46,800	73,800	23.99%
2020	34,300	108,100	35.14%
2021	4,841	112,941	36.71%
2022	2,000	114,941	37.36%
2023	14,000	128,941	41.91%
2024	14,000	142,941	46.46%
2025以降	164,710		
計	307,651		

LED照明の導入について

○省エネ・CO2削減目標達成のためのハード対策として、照明器具をLED照明器具への更新を進めています。この対策により消費電力とCO2の削減効果が期待できます。

LED化計画(計12,850台)



環境負荷低減への取り組み

柏原キャンパスの太陽光発電設備について

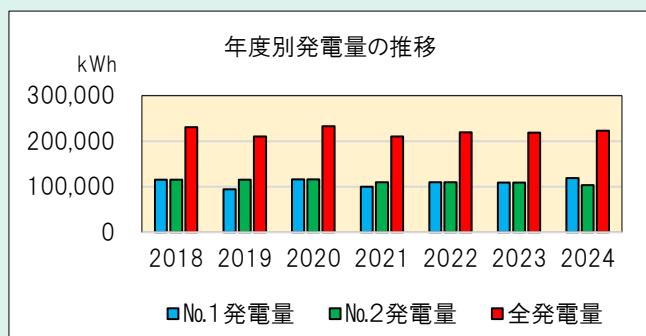
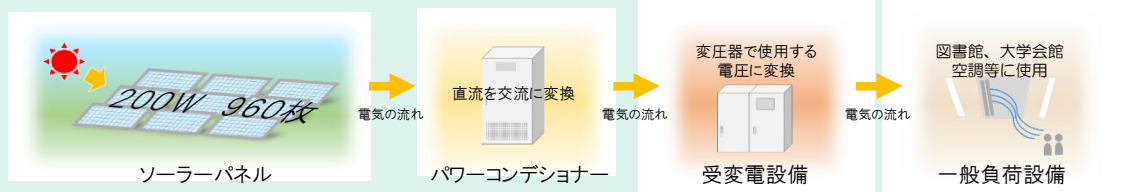
柏原キャンパスに約200kWの太陽光発電設備を設置しています。この設備により契約電力の約10%の電力消費に貢献しています。太陽光で発電した電気は、柏原キャンパス内の附属図書館と大学会館で消費しています。

- 太陽光発電設備の容量
 - ・ 100kW × 2セット = 200kW
 - ・ 太陽光パネル 200W 960枚
- 太陽光発電設備の年間発電量（R6年度実績）
 - ・ 119,000kW + 104,000kW = 223,000kW



● 太陽光発電設備

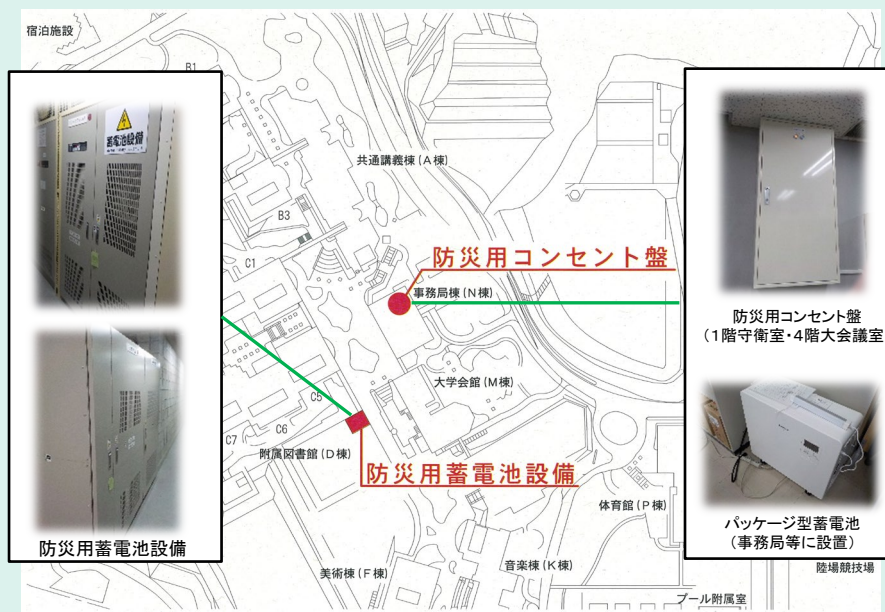
- 太陽光発電設備で発電した電気のフロー



項目	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
No.1 発電量	115,596	94,644	116,309	100,281	109,543	109,439	119,286
No.2 発電量	115,311	115,445	116,377	110,023	110,072	109,473	103,711
全発電量	230,907	210,089	232,686	210,304	219,615	218,912	222,997

防災蓄電池の整備について

柏原キャンパスの附属図書館内の電気室に防災用電力貯蔵設備用パワーコンディショナー及び蓄電池を設置しています。これにより災害時に事務局棟1階及び4階の防災用コンセントに電力の供給が可能です。





大阪教育大学は、この自然に囲まれたキャンパスの立地環境を活用し、生きた教材として、優れた環境人材の創出を目指します。本学の学生・教職員の環境への取り組みにご理解いただき、ご指導、ご支援をお願いいたします。

環境報告書ホームページ

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/joho/houtei/>



お問い合わせ先

国立大学法人 大阪教育大学 総務部施設課企画係

電 話 : 072 - 978 - 3333

F A X : 072 - 978 - 3345

M A I L : sisetuka@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

U R L : <http://osaka-kyoiku.ac.jp/>